

浄土

monthly JODO

2020
June

6

貧乏骨董

三宅政吉

グラフィック・デザイナー

口縁 14cmほど。赤一色の
 印判手。下は底に印刷さ
 れた文字



手がかりは底に印刷
 されている「AQUILA」

西洋骨董にはほとんど興味が無い。おそらく西洋の歴史のなかの、人々の暮らしの息遣いとでもいうようなものを実感として感受できないからだろう。たんに珍しかったり、美しかったりするだけでは、私の興味の範疇には入ってこない。

写真の絵皿は、都内の某画廊での句会のあとの酒席で、料理の取り皿として出されたものである。印判による赤一色の絵付けで、表面には細かいヒビが走り古いものだとかかる。それよりも描かれた鷲の絵に惹かれた。この鷲はどこかで見た記憶がある。

画廊のオーナーに写真を撮ってもいいか確認したついでに、この皿の由来を聞いてみたがよくわからないらしい。



歌川広重「名所江戸百景
 深川洲崎十萬坪」安政5(1857)年

「WOODS WARE」「WOOD & SONS」「ENGLAND」の文字である。AQUILAは鷲のことだから、この皿の絵柄の名称なのだろう。調べてみると、「WOODS WARE」は一八七三年創業のイギリスの陶磁器メーカー、「WOOD & SONS」社のブランド名である。

この会社は、二〇〇五年に廃業しているが、人気の高い陶磁器メーカーだったようだ。インターネットのオークションにもかなりの種類が出品されている。

鷲の絵だが、たぶん広重の絵ではないだろうかとあたりをつけて、広重の作品集を探すと、「名所江戸百景 深川洲崎十萬坪」であった。この絵の大胆な構図は一度目にしたら忘れられるものではない。浮世絵がヨーロッパの美術界に与えた影響はよく知られているが、こういった日用品にまで引用され、庶民の暮らしのなかに溶け込んでいるのに出会うのは楽しい。

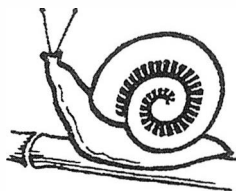
浄土

2020/6月号 目 次

法然上人の画像を拝して	魚尾孝久	2
寺々刻々② 新型コロナで激変する世界の葬送 ...	鵜飼秀徳	10
連載 インド紀行② 理想的な生活	佐藤良純	14
微風吹動 本当の禍とは	名和清隆	16
連載 江戸の川を歩く③⑧ 那珂川ほか	森 清鑑	20
連載小説 渡辺海旭⑩⑪	前田和男	26
連載 マンガ さっちゃんはネッ	かまちよしろう	31
編集後記		32

表 2 貧乏骨董

三宅政吉

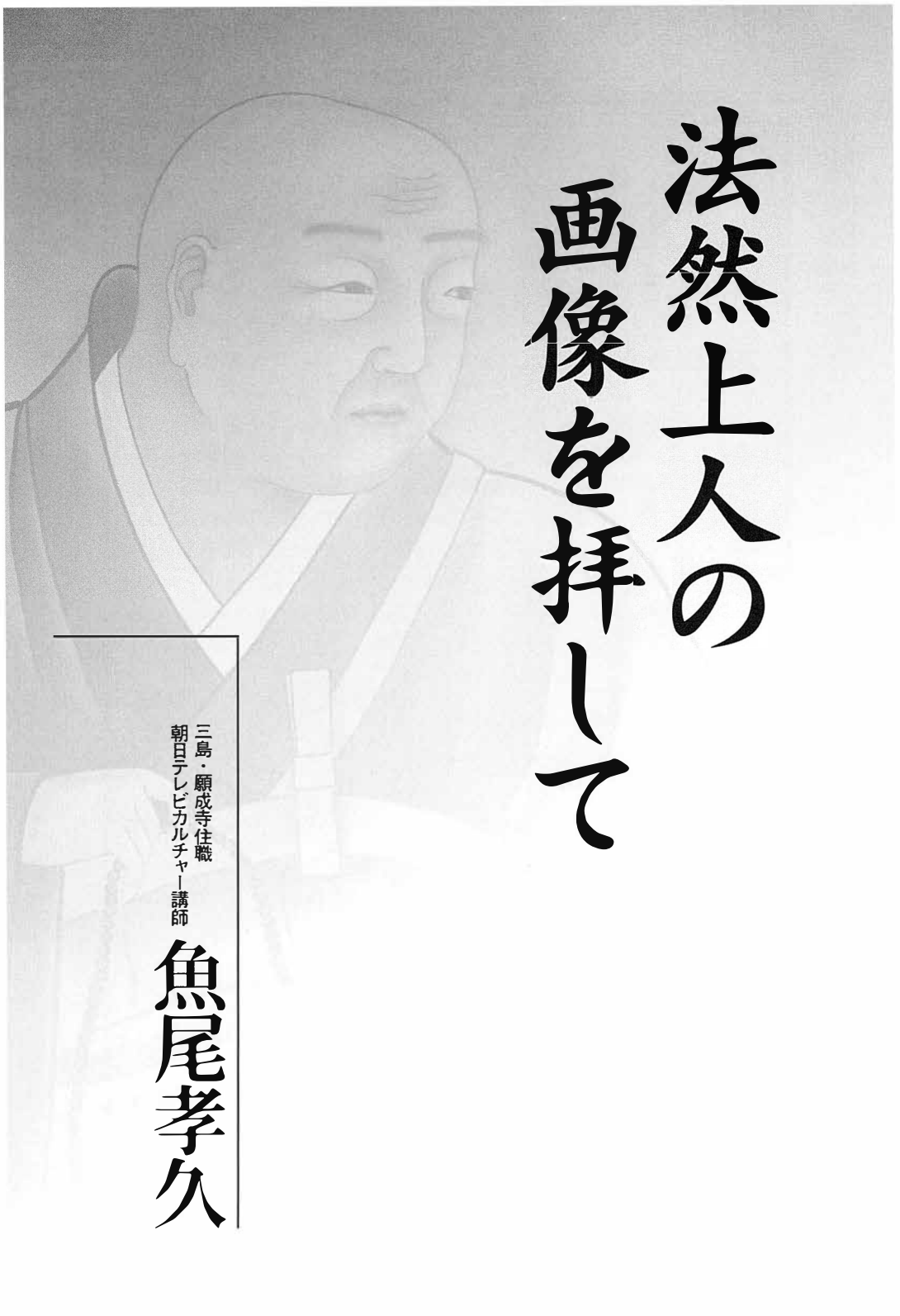


表紙題字＝中村康隆元浄土門主

表紙写真＝鬼海弘雄

アートディレクション＝近藤十四郎

協力＝迦陵頻伽舎



法然上人の 画像を拝して

三島・願成寺住職
朝日テレビカルチャー講師

魚尾孝久

何年前であろうか、仏天蓋（※1）の修理にあたつて、ご本尊阿弥陀三尊像を動かした。まず阿弥陀さまの魂を抜く作法（撥遣式 ※2）をおこなつてから、作業が始まる。マスクと白手袋をして、天蓋の環珞（※3）を外す。いよいよご本尊阿弥陀さまの移動、み魂は抜いてあるといいながらも、緊張が走る。

座像で身の丈は80cmほどであるが、そつと持ち上げると、じつに軽いのである。目方を量つたわけではないが、3〜4kgぐらいであろうか。初めて持ち上げる私は、乾漆像であることをすっかり忘れていた。その阿弥陀さまのお姿から20〜30kgと思つて持つただけに、拍子抜けしてしまい、阿弥陀さまの存在をも軽く思つてしまったのであろうか、申し訳ないことである。阿弥陀さまを受け取つてくれた、島津法衣仏具店の社長も驚いていたようである。

乾漆像には、木の芯がある「木心乾漆像」（※4）と、芯を取り除いてしまった「脱活乾漆像」（※5）がある。素人考えであるが、その軽さから脱活乾漆像に思える。

戦後まもなく、東京国立博物館監査官で仏教考古学者の石田茂作氏の調査を受け、「この地域での乾漆阿弥陀像は非常に珍しい。平安時代のもものかもしれない。ただ、何度も上塗りがなされており、とても残念である」との評をいただいたと聞く。承知していたとはいえ、改めて我が本尊さまの存在感を知らされた。

仏天蓋の修理後、改めて阿弥陀さまにお戻りいただくにあつて、阿弥陀さまの位置、高さを変えさせていただいた。阿弥陀さまの高さを少し調節して、阿弥陀さまの目線と登高座（※6）した私の目線とが、一直線になるようにさせていただいた。すなわち本堂に

てお勤めから法要まで座るとつねに阿弥陀さまと私とは目が合っていることになる。

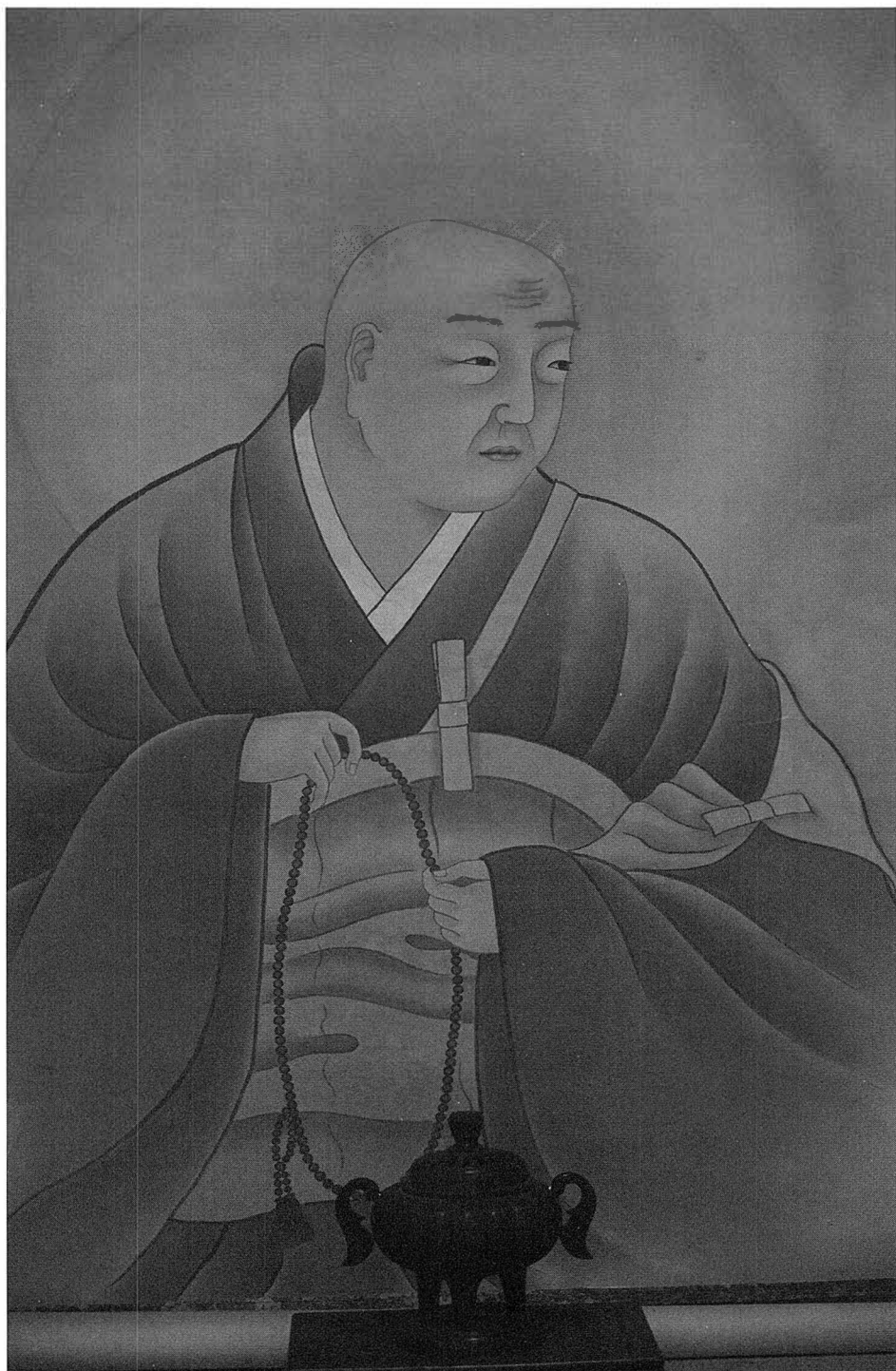
この変更は思わぬ結果を生じさせた。登高座するとまず阿弥陀さまを拝するのであるが、阿弥陀さまが微笑んでくださっているように見えるときと、怒ったように見えるときがあるのである。

何故であろうか、今までにはないことである。何度か経験しているうちに気がついたのは、私にうれしいことがあったときには微笑んでくれ、失敗や怠けたときには怒っているように見える。物質としての阿弥陀さまの形状は、つねに変わることはないのであるが、どうも私どもの心持ちによって変わって見えるのである。違った言い方をすれば、仏さまのお顔は、私たちの心を映しだしているのだと気づいた。

そうすると、いつも微笑んだ阿弥陀さまを拝したいと思う気持ちは偽ざるものであるが、世俗に毒された私などは、思うようにはいかなのが現実である。本山をはじめ他宗にいたるまで、本尊さまを拝するときは、つねに本尊さまのお顔が気になってしかたがない。

たとえ怒ったような忿怒の相をしているお不動さまであっても、微笑んでいるようにも見える。私の寺は、その昔は真言宗の寺であって、江戸時代に浄土宗に改宗されたので、今でもお不動さまを祀っている。波切りお不動さんとして、多少離れているが漁師たちの信仰をいただいていた。

現在も参道の入り口ではお不動さまが参詣者を待ち受ける。お年寄りや、子供のころお不動さまが怖かったというが、お不動さまが「よくお参りに来たね」といつているようにも思えるから不思議である。



願成寺蔵の法然上人絵像。

お不動さまや山門の阿吽像めうん しんじう、神将などは別として、いわゆるおおかたの仏さまの目は、半眼はんがん（※7）なのである。その切れ長の目こそ私たちの心を映し出し、ときには笑って見え、ときには怒ったように見えるのである。

お檀家さんと、しばしば増上寺さんにお参りに行く。大殿の阿弥陀さまの前で、お焼香をさせていただくことができるからである。「お焼香することにとらわれず、急ぐことはありません。私たちだけのお参りですので、ゆっくり阿弥陀さまを拝し、阿弥陀さまが何の声をかけてくださっているのか聞いてきて下さい」という。みなしつかりと阿弥陀さまのお顔を拝している。私も拝すると、「お檀家さんとよくお参りに来て下さいましたね」と微笑んで下さる。今一度拝すると、少し悲しそうなお顔である。心当たりがあるが、今は書かない。

私の寺の本尊さまに向かって右側の床の間に、法然上人の画像が祀られている。先代住職が浄土宗開宗800年の折、絵師に画いていただいたという。いわゆる法然頭（※8）の見なれた法然上人のお姿の画像である。

画像の法然上人は、阿弥陀さまとは違い、私にはいつも微笑んでいるように思え、あまり怒ったお顔を見ることがない。法然上人の怒ったお顔というものは、想像できない。

意けても失敗しても、ときには誤魔化してしまっても、それを咎めるのではなく、「人間とはそういうものですよ、それを知って、少しずつでも何とかしていきましょう。ときにはどうにもならないこともあるけれども、私は必ずあなたを見守りますよ」との、メッセージが伝わってくるのである。叱られて「なにクソ」と奮起することも大切であるが、

いたらなさに気づかされ、法然上人に寄り添っていただいていることに安心をいただくであろうか。

いつも拝しているお顔が、一番親しみを感じ好きであるが、それだけに他の法然上人のお顔にも興味が引かれるものがある。どうもおおかたの法然上人の画像は、制作者の違いはあっても似ているように思う。

お顔の方角的は（クロックポジション ※9）、3時の方向をお向きになっている。画像というのは2次元の世界であり、その人物の表情や立体感を表現するには、正面からの描写では凹凸のないものになってしまい難しい。よって左右に20〜30度向いたときに、陰影が生じ豊かな表現ができるのである。

写真も同じで、必ず正面を外して撮られている。正面からの画像を要求されるのは、人物の認識や確認を求める免許証とパスポートだけである。

日本で肖像画が描かれるようになったのは、法然上人の時代ごろからという。この時代から写しをも含めて、左向きの数多くの肖像が残されているのが法然上人である。

法然上人八百年大遠忌（平成23年）の記念事業として、浄土宗より『法然上人聚英』が刊行され、代表的な御影として、二尊院の「足曳御影」あしひきのみえい、似絵の名手藤原隆信、信実親子の「信実御影」「隆信御影」、知恩寺「鏡御影」、金戒光明寺「鏡御影」が掲載されているが、「信実御影」だけが右側を向く。

浄土宗寺院の法然上人の画像は、おおかた左を向いたものである。「足曳御影」と藤原隆信、信実親子の「御影」が描かれた時期は、ほぼ法然上人の在世と重なってくるという。

直接お会いして、肖像画が描かれたかどうかは判らないが、画像が今日まで書き写されてきたというところに、血脈を感じ親しみ感じるのである。大切にしていきたい。

阿弥陀さま、そして法然上人の画像は、この文章を微笑んで下さるであらうか。

※1【天蓋】てんがい

仏像の一。仏像などの上にかざす笠状の装飾物。周囲に璽珞（ようらく）などの飾りを垂らす。（日本国語大辞典抜粋）

※2【撥遣式】はっけんしき

彫刻・図画した仏・菩薩像、曼陀羅、位牌、お墓、石塔などの手を合わせて拝むものを修復しようとした時、繰り出し位牌にまとめるために処分する時、また引っ越しなどで動かす時などに魂を抜く法会です。

これを一般的に魂抜き、お性根抜きを正式には「撥遣」（はっけん）といいます。つまり修復する場合は、撥遣式を行った後修復し、修復完了後また開眼式を行う事となります。詳しくは、開眼式をご覧ください。（浄土宗HP）

※3【璽珞】ようらく

珠玉や貴金属を編んで、頭・首・胸にかける装身具。仏菩薩などの身を飾るものとして用いられ、寺院内でも天蓋などの装飾に用いる。もとインドの上流階級の人々が身につけたもの。（日本国語大辞典抜粋）

※4【木心乾漆像】もくしんかんしつぞう

仏像彫刻の技法の一つ。主として奈良時代後半から平安初期にかけて行なわれた。大体の形を木でつくり、

それを心（しん）として、表面を乾漆で形成して仕上げる。

※5「脱活乾漆」だっかつーかんしつ

乾漆の一つ。粘土で像の原型を作り、その上に麻布を何枚も漆で張り重ね、乾燥後、内部の土を取り除いて表面を仕上げる方法。

※6「登高座」とうづつぎ

法要において講読師や堅者が高座に登ること。

※7「半眼」はんーがん

目を半ば開くこと。また、その目。

※8「法然頭」ほうねんーあたま

法然の頭の形に似ているところからいう、中央部がくぼんだ頭。

※9「クロックポジション」

（英語：Clock position）とは、観測者を水平なアナログ時計の中心に置き、観測者の正面を「12時方向」とした時、対象物や目標方向が時計の「何時方向」であるかの方位を提示する手法である。同様の手法は日本でも「干支」を利用して行われ、その名残は取舵（酉舵）などの形で残っている。

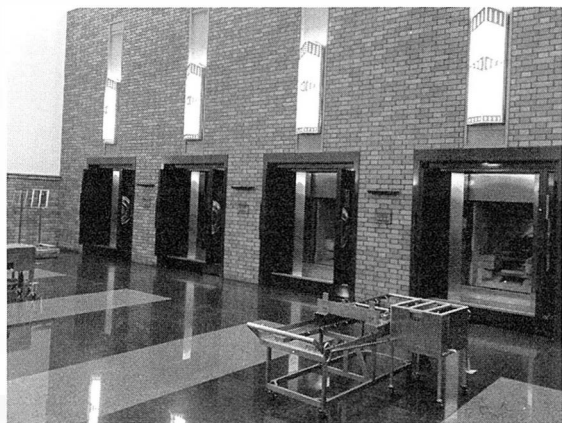
航空機や船舶などで主に用いられる。航空機の場合は、水平方向をクロックポジションで、垂直方向は上方をhigh、下方をlow、同一高度をlevelと表現する（例：6 o'clock highは、背面上方）。

『寺院消滅』『教養としての仏教』著者

鵜飼秀徳の寺々刻々

新型コロナで激変する世界の葬送

東京都板橋区の火葬場ではコロナ感染症で亡くなった遺体の火葬を営業時間外で引き受けている

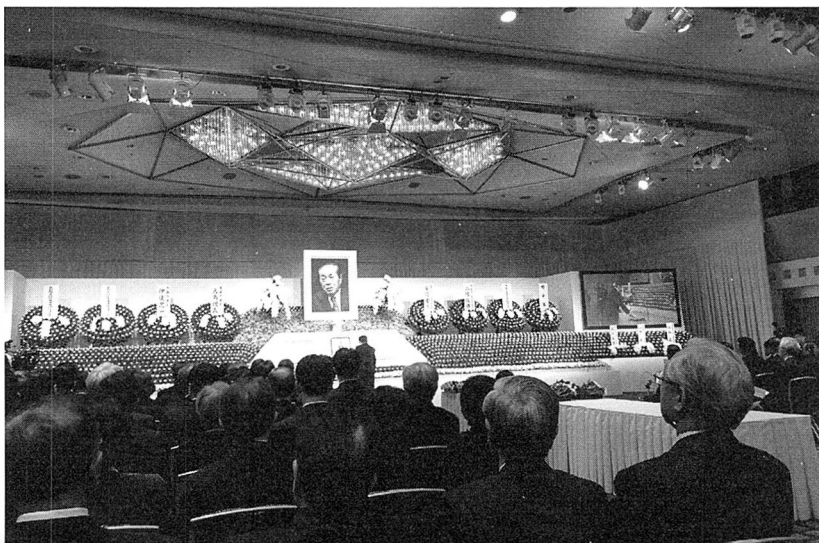


新型コロナウイルスの感染拡大で、世界が恐怖に包まれている。社会不安の最大の媒介者はインターネットである。ネット全盛の時代にあつて、負の側面であれば、誰もが「発信者」になり、その結果、デマが流れ、恐怖の連鎖をつくってしまっていること。SNSでの情報の拡散が、マスクなどの買い占めにつながった。

社会不安は憎悪や差別をも生む。そういう意味では、インターネットはコロナウイルスと同類か、もつとタチが悪い存在かもしれない。

だが、インターネットは様々な自粛措置の「救世主」になっているのも確かである。実店舗に行かずともネット販売で食糧や生活必需品が手元に届く。またリモートワークによって、企業は事業を継続できている。さらに、離れて住んでいる家族や友人ともパソコン上でリアルにつながり、安心を共有することができる。

2018年に実施された故野中広務元官房長官のお別れの会。
このような大規模な葬送はしばらく行われないであろう



私も対面での会議や飲食がはばなくなった代わりにネットを使った様々な交流が始まった。おかげで、しばらくご無沙汰であったフランス在住の友人とも、やりとりが再開した。彼女は、世界でも最悪レベルの死者数を見せている現地パリの葬送の実情を伝えてくれた。

フランスでは4月下旬現在、1日あたりの死者数が500〜800人ほどで推移しているが、実数は不明という。彼女は、厳しい外出禁止令が出されており、実態を取材しようにも困難な状況だと教えてくれた。そんな中で、ぞつとする話を聞いた。

遺体安置施設があふれ、郊外の卸売市場に棺が並べられているという。それは火葬場のキャパシティをはるかに超える死者が出ているためである。ちなみに米国はもっと深刻で、ニューヨーク市では離島に埋葬地を設けて、集団埋葬を始めた。パリでも同様の事態が起きている可能性がある。

そもそもフランスでは近年、火葬が急増していた。フランスはカトリックの国。キリスト教では火葬は「復活」を妨げるとして、長年タブーとされてきた。しかし、半世紀ほど前にローマ法王庁が火葬を解禁し、火葬場が整

新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方の葬儀式等について 法要等の執行にあたってのガイドライン

令和2年4月9日

浄土宗総合研究所

〔令和2年4月13日一部改訂〕

- ・今は感染防止対策を徹底させ、うつらない、うつさない、うつさせないようにしましょう。
- ・感染者の葬送については、お骨になった後でも枕経・通夜・葬儀をつとめ極楽浄土へとお見送りいたしましょう。
- ・正しい知識・現状認識のもと、感染者遺族や故人に対する差別事象が発生しないよう、遺族に寄り添いましょう。

備され始めた。背景には、火葬は土葬より安価であるとの経済的な理由がある。10年ほど前には25%前後だった火葬率が、現在では35%ほどに上がっている。一方で日本では、火葬率は99.9%と世界一の火葬大国である。今回のコロナ禍をきっかけに、世界の葬送の変化のアクセルが、ゲンと踏み込まれそうだ。

イタリアでは聖職者が遺体から感染する事例が相次いだ。キリスト教の教会では火葬をしていない遺体を前にしてミサを行う風習がある。本来の宗教儀式を強く求めるがゆえに教会が集団感染をつくってしまった。そのため当局は、火葬や埋葬には立ち合いが3人以内という規制を設けた。今後、キリスト教国では本格的に火葬シフトに転じそうである。

日本では4月末現在、遺体からの感染は確認されていない。しかし愛媛県では葬式会場で集団感染が生まれた。その噂は広がり4月以降、全国の葬式は「必要最小限の人数で」執り行われることが多くなってきた。

それでなくとも、特に都会では葬式をしない「直葬」が増えてきていた。コロナ禍を契機にしてより葬送の簡素化が広がっていくであろう。年忌法要も取りやめる事

オンライン葬儀を案内するサイト

@葬儀（アット葬儀）とは？

WEBを活用した新しい葬儀サービスです
 離れていても哀悼の意を示せるオンライン参列
 訃報のWEB化や香典のキャッシュレス決済など
 ご遺族、参列者様を支援し
 皆様の故人への思いを大切にします

@葬儀（アット葬儀）の主な機能



うかい・しゅうとく 1974年京都市生まれ。大学卒業後、新聞記者、雑誌編集者を経て、2018年にジャーナリストとして独立。社会と宗教との関係性を明らかにすべく、取材を続ける。著書に『寺院消滅』（日経BP）『仏教抹殺』（文春新書）など多数。近著に『ビジネスに活かす教養としての仏教』（PHP研究所）。嵯峨・正覚寺副住職、（一社）良いお寺研究会代表理事、佛教大学・東京農業大学非常勤講師。

例が相次いでおり、それがスタンダードになっていく流れも予想される。寺院や関連産業への影響は大である。

しかし、そこにインターネットが救世主となってくれる可能性が出てきた。ITリテラシーが高い僧侶の中には難局を打開しようとする動きがみられる。ひとつは「葬式のネット中継」を配信する試み。葬式や法事はごく近い人たちだけで実施し、その模様をライブ配信する。親族や知人らは自宅のパソコン上で手を合わせる。

また、禅僧の間では、「オンライン瞑想」を広げる動きがある。明日への不安を抱える人が多い中で、僧侶がホスト役になって、坐禅やマインドフルネスを通じて不特定多数の人に心の安寧を与える。きっと、在宅勤務をしているビジネスパーソンや医療従事者などに広く受け入れてもらえるのではないかと、私は期待をしている。

これらは、コロナ禍を逆手にとって仏教の存在価値を高める有効な手段だ。オンライン瞑想・念仏などは、世界に布教の輪を広げていくチャンスにもなり得る。

宗教界はいま、様々な制約に縛られているが、座しては滅びるだけ。今こそ、宗教の出番だと自覚し、新しい挑戦をはじめてもらいたい。

理想的な生活

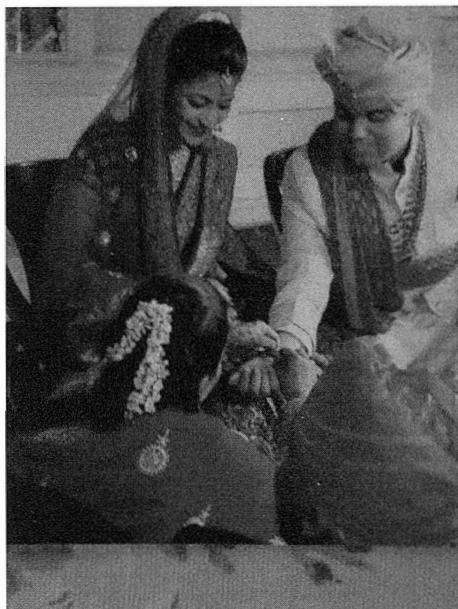
古代インドでは人の一生の理想的な生活方法として 四住期をあげている。

学生期

師のもとでひたすら学業に努める

家住期

結婚し子供を育て、正しく祖先供養を行う



新郎新婦

林住期

森に住み修行する

遊行期

一定の住まいを持たず乞食し歩き

まわる

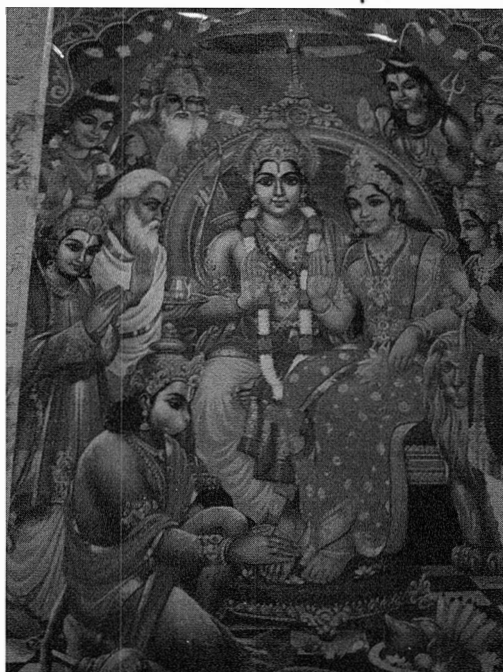
各々の時期に努めるべき行動と義務は詳しく定められており、正しく日々を過ごすことが求められる。そして、古代インドではダルマ(宗教的義務)、アルタ(財産)、カーマ(性愛)を満たすことが理想の家庭生活とされていた。

釈尊もこの方法に従い、勉強にはげみやがて結婚する。妃の名前をヤシヨードラと伝えるものが多いが、単に子供ラーフラの母と呼ばれていることもある。

ちなみにラーフラは「月を食べる悪魔(日食、月食)」とされるが、現在でもこの名が一般に使われているので、他の意味があるのかもしれない。

そして、母であるヤシヨードラは釈尊出産後七日後になくなり、釈尊は王の後妻マハープラジャーパティに育てられたと伝えられる。さて、家長として心がけなければいけない

神様の結婚



ことの第一は、殺生と盗み、嘘をつくこと、他人の妻に近づく事をしてはいけない、ということであると。これは出家者に対する戒と同じ。

次に、太陽が昇ったあとでも寢床にある（寢坊する）、鬭争にふける、悪友と交わる、物惜しみ、賭博、酒を飲み夜中に散歩すること、これらは人を破滅に導くとされる。

一方、為すべきことは財産の四分の二を農業と商業に、四分の一を自分で使い、残りの四分の一を貯蓄せよ、とする。

特徴的なのは、夫が妻に奉仕する五つの項目で、尊敬すること、軽蔑しないこと、權威を与えること、金銀の装飾品を与えること、そして他の婦人と散歩かないこと、である。これに対し妻は仕事をよく処理し、親族を良く持てなし、主人以外の男性に心を奪われないうこと、財産を保護し、勤勉であることが求められる。つまり、男女平等の考えが強調されている。

こうしたことがしっかり守られれば理想的な生活となることは間違いない。

さとうりょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学科長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余回。著書は『ブッダガヤ大菩提寺』、『釈尊の生涯』など多数。



微

風

吹

動

本当の禍とは？

「どうでもいい」とかそんな言葉で汚れた心 今放て

春の歌 愛と希望より前に響く

聞こえるかい？ 遠い空に映る君にも

春の歌 愛も希望もつくりはじめ

遮るな何処までも続くこの道を

(スピッツ「春の歌」より)

名 和 清 隆

桜はとつくに散ったというのに、未だ春は訪れない。若葉が目まぶしい時期になったというのに、世の中は未だ暗いニュースで満ち満ちている。

自坊の門前は、小学校の通学路にあたっている。毎年この時期には、身の丈に合わないランドセルを背負い、上級生の後を一生懸命に追いかけながら学校へと向かう新入生の姿を目にする。最初のうちは不安そうな面持ちを隠せないような姿が、数週間も経つと新たな環境に慣れたせいとか、幼い表情のなかにも逞しさが垣間見られるようになるのは、見ている側としてほほえましいものである。

新たな環境には大きな不安が伴ない、そして時にはその不安ゆえあきらめの気持ちが生じることもあるが、それだけ人を成長させてくれるものである。しかし残念ながら、今年はまだこのような姿を見ることが出来ない。新たな進路へと進んだ学生や社会人は、未だスタートを切れないでいる。（＊五月十日現在）

新型コロナウイルスの蔓延は、いつの頃からか「コロナ禍」と呼ばれるようになり、新聞などでも一般的に用いられるようになってきた。

そもそも「禍」とは何か？ 人々はどのようなものとして理解してきたのであろうか？

まず、禍という字の語源を尋ねてみると、祭壇や神を表す「示・ネ」に骨の関節のくぼみを表す「冎」が組み合わさった文字であるらしい。これは「神

のたたりを受け思わぬ穴に入り込む」という意味を持ち、つまり禍とは「神が与える罰」のことを意味する。

語源からも分かるように、人間は洋の東西を問わず、人智を超えた悪しき現象を、人間を超えた存在（神や魔）の力によるものであると捉えてきたのである。中世ヨーロッパにおける魔女裁判。これは社会に何らかの災厄が生じた際、その原因を悪魔のせいとし、悪魔の使いとみなされた魔女を処罰することによって解決を図ろうとしたのは有名な話。イラン発生のゾロアスター教の世界観は、アフラ・マズダーという至高神とアンラ・マンユという狂気・暴力・病気をもたらす厄神との争いの中で世界が成り立っているとす

る。

日本においても、禍津日神など災厄をもたらす神々が存在し、それを祀る神社も全国各地にみられるが、その中で最も有名なのは牛頭天王ごずであろう。牛頭天王は日本においては疫病をもたらす存在であり、その霊力が強大であるがゆえに逆に丁重に祀れば災厄を防いでくれる存在として考えられた。『備後国風土記』逸文には、武塔神（*牛頭天王のこと）がお忍びで旅に出た際、裕福な弟である巨旦将来に宿を請うたところ断られたが、貧しい兄である蘇民将来は丁重にもてなした。恩義を感じた武塔神は正体を明かし、後世に疫病が流行することがあれば、蘇民将来の子孫といって腰に茅の輪をつけると疫病から免れることを教えたという話がある。この話をもとに、疫病除けの祭

りとして祇園祭が全国で行われている訳である。

このように疫病などの災厄は、人間を超えた存在によってもたらされると捉えられてきたが、そこにはその解決方法がちゃんと用意されているのが興味深い。危機的状況に対する、その「原因解明」と「解決方法」という文化的装置である。ここに人間の逞しさ（いや、したたかさというべきか）を感じざるを得ない。如何ともしがたい絶望的な状況に置かれても、それを耐え忍び、未来に向けて、希望の光に向けて一歩一歩進む。長い歴史のなかで醸造してきた、人類の秘めたる決意が込められているようである。

現在、コロナ禍の影響で大きな苦しみに喘ぐ人々が多くいる。また今後、この直接的・間接的影響がどの程度のものとなるのか、予想もつかない。

社会のひずみが表面化し、人間の汚い部分が表出してもいる。困難ゆえのあきらめも出ている。これこそが、本当の禍なのではないだろうか。

「禍福は糾える縄の如し」（幸福と不幸は代わる代わる来るものだ）

「禍も三年経てば用に立つ」「禍を転じて福と為す」

（災難や失敗を上手く利用して、逆に自分の有利になるよう工夫する）

困難ゆえの「どうでもいい」というあきらめの心に負けない。今は直面した困難をしたたかに耐え忍び、その先の成長へと結びつけ、遅れてくる春を楽しみたいものだ。

江戸の川

を歩く

第三十八回

江戸ウォーカ―

森清鑑

那珂川

徳川御三家、水戸城下町の外堀にして、太平洋に向かう、堂々たる一級河川、那珂川。家康は江戸造りと同時に十男頼宣、十一男頼房を盟主に、水戸藩を結成し、北に対する要衝の砦とする。水戸は太平洋に近く、那珂川、桜川、千波湖、^{ひなま}涸沼川に挟まれた、最高の立地条件を備えている。水戸という地名は、那珂川の河口、水運の戸口という意味で室町時代から呼ばれている地名。家康はこの地に御三家のひとつを配備する。

治水、灌漑水路の掘削——備前堀

川に挟まれた地域に水戸城郭、城下町を造る。それには洪水を防ぐこと、つまり治水と農地開発の灌漑用水路をまず造る必要がある。家康は、この大事業をまたしても関東郡代の伊奈備前守忠次に命じる。正に「伊奈」様々である。頼宣も頼房も幼く、江戸にいる。頼宣に至っては、紀伊徳川家の始祖となる身。伊奈は桜川から南の涸沼川ま

で十数キロに及ぶ水路を造る。幅広く、堂々たる水路である。江戸の小名木川を連想させる。工事（は、一六一〇年（慶長十五年））に完成。こうして広大な農地が醸成され、重要な船運路が出現する。水戸市の周囲を流れる川がすべて繋がり、治水の面でも威力を発揮する。家康は、伊奈忠次の功績を讃え、この用水路を備前堀（伊奈備前守忠次）と命名。そしてこの備前堀を軸に水戸は発展していく。

那珂郡を貫く農業用水路掘削

一六五六年（明暦二）、頼房は、もう一つの灌漑用水路の掘削に着手する。工事責任者は、永田茂右衛門。彼は那珂川上流の那珂市下江戸に堰を設け、那珂川の北側を東西に貫く水路を完成する。それは取水口からひたひたなか市武田まで三十キロに達するもので、那珂郡の豊富な穀倉地帯を醸成するものであった。現在、取水堰はさらに上流の小場江に移されているが水路は今日に至るもなお使用されている。

那珂川の水源

水戸市街地の北側を通る、一級河川、那珂川は堀であり、重要な水資源であり、船運路である。那珂川の水源は、那須岳。山肌を縫う幾筋かの流れが一本化され東南に下る。那須サファリパークの南を通り、黒磯、大田原を抜ける。清流である。すでに溪谷をなしている。左、小高い森が広がる。黒羽芭蕉の館がある。黒羽城址。芭蕉は「奥の細道」道中でここに滞在。当時の旅籠を再現した記念館がある。川の右側には大田原の民家が広がり、湯坂川が流れ、那珂川に合流する。弓の名人、那須与一の出生地とされ、伝承館がある。那珂川は田園を縫って南に下る。流れは、蛇行しながら、自然の風景を育んでいる。幾筋もの流れが緩なす処があり、右に那須国造碑が建つ。西暦七百年、那須国造であった豪族、那須家の遺徳をたたえる碑である。立派な御堂。徳川光圀も碑の保存に尽力している。やがて川の右側に侍塚古墳が並んでいる。ここを過ぎると那珂川は大きな溪谷を形成。

さらに南下。やがて右側から水量豊富な箒川が流入する。川幅はさらに広がる。左右に那珂川町の温泉が開け、また権津川が加わる。ここら辺りにも各所に古墳があり、古代人の生活の場であったことが分かる。今度は左から武茂川が加わる。那珂川の川幅はさらに広がり、大きな蛇行を描きながら南へ（那須烏山）。左右、山間の自然を縫って蛇行。やがて流れを東に変える。御前山を通過、ここで流れは再び南へ転じる。やがて下江戸の堰（農業用水路）が見える。すると水戸である。那珂川は大きくうねりながら水戸市中の北側を通り、海に向かって行く。船に乗って南側を見ると水戸城の隅櫓が見え、川の方方向に沿って城下町が広がっている。その先には、千波湖と桜川が見える。

水戸城

水戸の歴史。鎌倉時代の一八九三年に頼朝の下命により、この地を地頭、馬場氏が賜る。以来、馬場氏は九代二百四十年継続。江戸時代、慶長十四年（一六〇九）、家康十一子、頼房が初代城主。

以来、二代徳川光圀、九代徳川斉昭と続く。

水戸城は、水戸市の中心部、現在の水戸駅の北側にあり、丘陵地に建設された平山城である。北を流れる那珂川と南の千波湖を天然の堀となし、西方に向かって本丸（水戸一高）、二の丸（水戸三高）、三の丸（弘道館）と続き、その間には空堀が巡らされ、幾分、戦国時代風の面影を持つ。水戸徳川家は参勤交代を行わない、江戸定住（上屋敷は後樂園）のため、天守閣は造られなかったようである。三の丸にある、弘道館は、日本三大学府の一つで、九代徳川斉昭の創設。その教授範囲はきわめて広く、武道、水戸学を始め、文系から自然科学にまで及ぶ。

弘道館の南、千波湖寄りに藤田東湖誕生の地がある。石碑と銅像が建っているだけが、東湖は斉昭の側用人として、弘道館設立に尽力、水戸にこの人ありといわれた人物で、水戸学の権威。極めて能吏であった。江戸の上屋敷（後樂園）近くで自邸で安政の大地震に遭遇。母親を助けようとし崩れてきた柱の下敷きになり亡くなったという。

今一度、水戸城下町を流れる河川を整理すると、まず、北に東西に流れる那珂川、南に黒磯に端を発する桜川。東西に広がる大きな千波湖（家康が北の守りを水戸に定めたとき、千波湖は、今の倍もの広さがあったという）。桜川は千波湖の北沿いをなめ、東に進み那珂川に合流する。那珂川は水戸を通過すると、直に太平洋に出るが（大洗）、その手前に右側から流れ込んでくる、大きな川が涸沼川である。

船に戻る。右手に本丸の隅櫓、城下町が展開。水戸出身の有名な人は多い。画家の横山大観は、水戸藩士の長男として生まれ、終生、岡倉天心を師と仰ぎ、日本美術院に参加。その作品の凄さは語る必要なし。菱田春草とは大の親友。大変な酒豪で「酔心」の樽酒をこよなく愛した。大観の近くに、明治の大横綱、常陸山の生家跡もある。彼も水戸藩士の子である。

那珂湊へ

那珂川はくねくねと蛇のように蛇行しているが、

北に盛り上がった処に隼人川水門が見える。

ここから那珂川は南に下る、右手に市中を流れてきた桜川が加わる。流れは東南に変わり、正に大河の蕩々とした流れになる。ややあって右から、中級河川、涸沼川が流れ込んでくる。水戸八景「巖船夕照」。絶景である。涸沼川は、大きな涸沼から端を発した流れである。すると、すぐ大洗。茫洋とした太平洋。左に那珂湊漁港。那珂川の水は最後まで清く、江戸時代には鮭が遡上した。水戸の地名は、「那珂川湊の入り口」から来ている。それほど水戸は太平洋に近いのである。

那珂川は関東随一の清流として知られ、流域は魚類が豊富。江戸時代には鮭が遡上する川として知られ、献上品であった。現在も鮎魚で賑わう川である。そしてその広大な流域は、古くから有数の穀倉地帯として知られていた。川魚、太平洋の漁業（支流の涸沼と涸沼川は、ニシンの南限）が豊富で、那珂湊漁港の魚市場は江戸時代から有数の規模を誇ってきた。

水戸の船運

水戸地域の物資の運搬は、十分すぎるほど水運が整っている。問題は、江戸と結ぶ物流である。通常のルートは、「那珂湊から太平洋に出て太平洋沿岸を南に下り、鹿島灘を経て、利根川経由で江戸へ」であつたらしい。三代、綱条の時、内陸の涸沼と北浦湖の間に運河を掘削。直接、利根川に繋げる内陸船運の開発に着手したが、農民一揆が起き、工事は中止されたままに終わったという。

〈お知らせ〉

毎年六月に開催しています公開講座ですが、本年は新型コロナウイルス拡散防止のため中止いたします。
※来年の公開講座でお待ちしております。

小説 快僧渡辺海旭

壺中に月を求めて

前田和男

第一〇七回

第三部

充実と稔りの白秋へ

渋沢栄一との縁にみちた親交 その六



もう一人の『月下氷人』、詩聖タゴール

大アジア主義者の巨頭である頭山満よりも先に、渋沢栄一と渡辺海旭とをつないだ可能性のある「月下氷人」が二人おり、前回はそのうちの一人であるフランス人銀行家のアルベール・カーンについて、詳しく述べた。

今回は、もう一人の「月下氷人」である『詩聖』タゴールについて検証を加えたい。まずは、タゴールの略歴を簡単に紹介した上で、タゴールと渋沢との関係、ついで海旭との関係について記す。

ラビンドラナート・タゴール。生年は一八六一年、日本でいうと、大老・井伊直弼が桜田門外で水戸浪士に暗殺された翌年の文久元年、おりしも幕末・維新の激動が始まった時期にあたる。ちなみに渋沢栄一はそれよりも二十一年前の一八四〇年、寛永十七年の生まれ、わが渡辺海旭はそれよりも十一年後の一八七二年、明治五年の生まれである。

ベンガル州はカルカッタの裕福な商家の十四人兄弟の末子として生を享けたタゴールは、イギリスに留学して法律を学んで帰国すると、詩作に専念して才覚をあらわし、一九一三年、代表作『ギーターンジャリ』でアジア人初のノーベル文学賞を受賞。欧米列強が政治経済だけでなく文化でも優位性を誇示するなか、世界中に大きな衝撃を与えた。よって『詩聖（グウルウデーウ）』の尊称を捧げられ、その評価は現在もおお衰えることはない。詩作以外にも歌や舞踊にも異才を発揮、多くの傑作を残した。ちなみにインド国歌「ジャナ・ガナ・マナ」はタゴールの作詞作曲によるものである。

『詩聖』も『日本資本主義の父』も憂国の志士だった!?

タゴールは生涯に五度も来日している。そのたびに全国各地で講演行脚するかたわら、往時の日本の一級の文化人や学者だけでは

く、政治家や実業家とも交流をふかめた。そうした政治家の中には大隈重信、実業家の中には渋沢栄一、そして学者の中には渡辺海旭もふくまれていた。

最初の訪日は一九一六年（大正五）。ノーベル文学賞を受けてから二年後のことであった。アメリカから講演依頼を受けたタゴールは、その途次、日本に滞在。かねて岡倉天心との交流を通じて強い関心をおぼえていた日本の仏教芸術に直接触れながら、アメリカでの講演の想をじっくり練ろうと企図したものである。

そのとき、受け入れ先となったのが、財界メンバーの一人として「日印協会」の役を引き受けていた渋沢栄一。渋沢とタゴールはこのときが「初対面」であった。

先のカーンとだったら、共に銀行経営で手腕を発揮した実業家同士、さらに企業界の社会貢献事業の世界的先駆けという点で共通点があったが、今回の相手は、ちょっとどこか、

まるで勝手がちがつていた。

そもそも、このときタゴールは五十五歳、かたや渋沢栄一は功なり名遂げた七十六歳。年の差は二十を超えていた。おまけにノーベル文学賞の「詩聖」と「日本資本主義の父」とではおよそ共通の接点はなく、会っても話などはずみそうになかった。しかし二人は思わぬことから意気投合した。

渋沢は、タゴールと初めて会話をかわしたときのことを次のように回想している。

「タゴールは西洋諸邦の暴戾を痛撃し、西洋人が物質文明の利を追ふことにのみ急で、有害なる阿片を支那が買はぬからとて不道理千万にも之に戦争を仕掛けて其国土を割かしめたり、其他弱国と見さへすれば凡ゆる口実を構へて之を虐げ、毫も人道を尊重する処無きを憤り、案を打つて慷慨して居つたが、単に維新前に於ける私のみならず、何処の邦の人でも自覚しかけて来ると斯んな風に慷慨したくなるものかと、偶々タゴールの感想が維新

前に私の起した感想と同一であるのに思ひ当りタゴールも猶且私と同じ事を繰返して居るのだなと考へたのである」(『実業之世界』第一五卷第一〇号、一九一八)

「詩聖」というからには、哲學的世界から珠玉の言葉をとつとつと紡ぎだすのかと思いきや、いきなり阿片戦争を例にとり西欧諸邦の暴戾を激しく指彈するタゴールに、洪沢は意表をつかれて驚くとともに、「憂国の志士だった若いころの自分と同じではないか」と、親近感を覚えたのであった。

このときの洪沢はすでに日本を代表する押しも押されぬ実業家であつたが、実は若かりし頃は尊王攘夷に命をかけた過激分子だった。

青年洪沢栄一は、二十四歳のみぎり、生まれ故郷である現在の埼玉県深谷を後にして江戸へ出ると、「お玉が池の千葉道場」に入門、天下無双といわれた北辰一刀流の剣術修行にげむなかで道場仲間の「愛国の士」から感

化をうけ「尊王攘夷」思想に覚醒。やがて、高崎城を乗っ取つて武器を奪ひ横浜の外国人居留地を焼き討ち、長州の仲間と語らつて幕府を倒すという壮大な決起計画を謀るも、決行直前に親戚筋から説得をうけ断念。しかし「尊王攘夷」の思いはやみがたく勤王派が横議横行する京都へ出奔するが、「八月十八日の政変」の直後で勤王派は壊滅。そこで、やむなく「勤王」から「佐幕」へと転じ、後に最後の將軍となる一橋慶喜に仕官。これが機縁となつて、その後、將軍の名代としてパリ万博に出席する徳川昭武に随行して渡欧、勃興する資本主義を目の当たりにして、実業家に目覚め、「日本の資本主義の父」となるのである。

現下の世界大戦の評価でも意気投合

洪沢は、タゴールと初めて出会うなり、「わが青春の蹉跌」をほろ苦くも思いだしたことで打ち解けたのか、その後は現下の世界情勢、

前年に勃発した第一次世界大戦について、こんな議論をかわしている。

「今度の欧州戦争は、その初め独逸が我儘勝手な手を出して自国の利のみ計らんとしたのに其端を発するが、タゴールが私と会見した際にも氏の言うた如く、物質的にのみ流れて利己専一になつてしまつてるのは、単り独逸ばかりで無い。西洋諸邦を挙げてみな然りと申しても敢て不可無きほどだ。これでは今度の欧州戦争が一旦収つて平和が恢復しても、其将来に關し、甚だ以て懸念に堪へぬ次第である」(前掲書)

「問題の核心は、西欧の物質主義の弊にあり」と、ここでも二人は大いに意気投合している。また、「論語と算盤の両立」が身上の洪沢だが、タゴールのことをこうも評している。

「孔孟の仁義道德と全く一致するかどうかはもう少し穿鑿(せんさく)して見なければ判りませぬが心の高尚な点は甚だ面白い、併し物質的の話に

なると少しも問題にならぬのです」(「予とタゴール翁」「東京市養育院月報」第二八一号、一九二四、「洪沢栄一伝記資料」38巻所収)「算盤」はからつきしのタゴールの精神主義を、「尊王攘夷」を信奉した若き日の自らに重ねて、懐かしみながら愛でているところが窺えて、まことに興味深い。

初回の来日時も二人は二回も会食をし、その後も来日のたびに、洪沢の飛鳥山の私邸で茶話会を楽しみ、共に歌舞伎を鑑賞するなど親交を温めている。一見、年齢も活動の場もかけ離れて見える二人だが、不思議にもウマがあつたのである。

(つづく)



かい目

かまち♡ひろう



かまち♡ひろう先生作新聞四コマ漫画『ゴンちゃん』が各地方新聞に掲載されています。(京都新聞・静岡新聞・山梨日日新聞・北日本新聞・福島民報・宮崎日日新聞・新日本海新聞・神戸新聞・岐阜新聞・中国新聞・四国新聞・徳島新聞)

編集後記

梅雨空がいつもより重くのしかかる 岱潤

梶村昇先生の訃報のお知らせを受け、大きな大きな喪失感に包まれました。九十五歳というお歳を聞けば、誰しもが驚かないし、納得の往生だと思われるかもしれませんが、つい四年前私たちの主催する講演会に、阿満利磨氏との対談という形で、ご講演頂いたお元氣な姿が、今も目に焼き付いているからかもしれません。和英対応の『法然上人のお言葉』を単行本にするときにお話をしたのもついでこの間でした。

先生は在家の出身で、京都からお父様の仕事の関係で千葉に來られ、大正大学

卒業後三十二歳の時に浄土宗教師の資格をお取りになつていらつしやいます。そこにどのような経緯があり、出会いがあったのか、自らお話しされることはありませんでした。その後アメリカの神学校に留学され、帰国後並細並大学に奉職されていらつしやいました。

先生の著された『悪人正機説』は一世を風靡し、仏教界を席巻しました。當時は驚かれましたが、今では先生の説が常識になりました。私が特に大好きな本は、『南無阿弥陀仏の論理』です。目から鱗の連続で、教科書的な知識ではなく、本当に聞きたい素朴な疑問に、真つ正面から答えてくれる本で、今でも本棚

の中心にあります。

梶村先生は学者っぽくなく、私が悩んでいる幼稚で恥ずかしいような疑問や悩みに、「そうだよ」と言ってくれる優しさを感じていました。私にとって本当に大事な先生でした。

(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤
斎藤晃道
佐山哲郎
青木照憲
村田洋一

浄土

八十七巻 六月号 頒価六百元
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 令和二年五月二十日

発行 令和二年六月一日

発行人 佐藤良純

編集人 加藤昌康

印刷所 株式会社 映刷

〒一〇五・〇〇一一

東京都港区芝公園四丁目四明照会館四階

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三(三五七)八六九四

FAX 〇三(三五七)八七〇三

振替 〇〇一八〇・八・八二八七

雑誌『浄土』
特別・維持・賛助会員の方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
藤谷勝正(目黒・祐天寺)
魚尾孝久(三島・願成寺)
大江田博導(仙台・西方寺)
加藤昌康(下北沢・森巖寺)
桑原恒久(川越・蓮馨寺)
桑原勇慈(甲府・瑞泉寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤久雄(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光圓寺)
東海林良雲(塩釜・雲上寺)
河本悠大(両館・称名寺)
高口恭典(大阪・一心寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村恭雅(清水・実相寺)
中村康貴(仙台・愚鈍院)
成田昌憲(世田谷・大吉祥寺)
野上智徳(静岡・宝台院)
藤田得三(鴻巣・勝願寺)
堀田卓文(静岡・華陽院)
本多将敬(両国・回向院)
水濤泰彦(芝・寶松院)
水村善隆(長野・寛慶寺)

(敬称略・五十音順)

ホームページ <http://jodo.ne.jp/>
メールアドレス hounen@jodo.ne.jp

写経と写詠歌セットのご案内

特徴① 奉書の手本に筆ペンで直接なぞる

特徴② 法事や行事の待ち時間で写せるA4判

特徴③ 手本は当会オリジナル

特徴④ 「写経セット」は浄土宗日常勤行式。

特徴⑤ 「写詠歌セット」は宗歌と四季の和歌。



従来の写経と異なる薄墨をなぞる写経と写詠歌のセットです。扱いやすいA4版で筆ペンで写せます。手軽にかつ短時間でできる新しいタイプの写経、写詠歌ですが、高級奉書を使用していますので、墨と毛筆でも写せます。法事や各種行事、詠唱会の待ち時間に、朝夕のお参りの前後に、新たな写経・写詠歌行事にご利用下さい。

申込日 年 月 日

御名前 電話 ()

御住所 〒

《御寺院欄》 教区 組 寺・院 寺院番号

①写経セット 頒価:12,000円(税込) 関東・関西 セット
(1組12枚、10組入り) ※寺院名 () を入れる・入れない

※関東版(三奉請)、関西版(四奉請)に丸をおつけ下さい。

②写詠歌セット 頒価:10,000円(税込) セット
(1組5枚、20組入り)

※写経セットの寺院名入れは無料です。ご希望の場合は寺院名をお書き下さい。
※消費税と発送料は頒価に含んでいます。商品お届け時の請求書にてお支払い下さい。
※ご注文をいただいてからお届けまで3週間ほどかかりますので、ご了承下さい。
※1組からご注文ご希望の方はFAXにて当会にご相談下さい。

《本頁をコピーの上、注文を記入して、法然上人顕仰会へ
Fax (03-3578-7036)、メール (hounen@jodo.ne.jp)、または
郵送(〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館4階)下さい》

お寺そして自宅で
心を落ち着かせて
経文の一字一字と向かいあう

写経 セット

浄土宗勤行の解説も付いた12枚組



浄土宗の日常勤行式が
写経になった!! 写経後は
オリジナルの経本
にもなります。

いまこそ写経を



写詠歌 セット

宗歌「月かげ」と春夏秋冬の和歌
解説付き5首セット

詠唱でお唱えする歌、
法然上人のお歌を
筆で写して心に刻もう!

当会オリジナル新商品!! 申し込みは裏面へ

法然上人を心から慕う
法然上人鑽仰会だから
こそ作れる高級奉書の
オリジナル手本です。

法然上人鑽仰会 FAX : 03-3578-7036

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4明照会館4階

※お問い合わせは、Fax またはメール

hounen@jodo.ne.jp へお願いします。